

「サラブレッド銀座」へようこそ



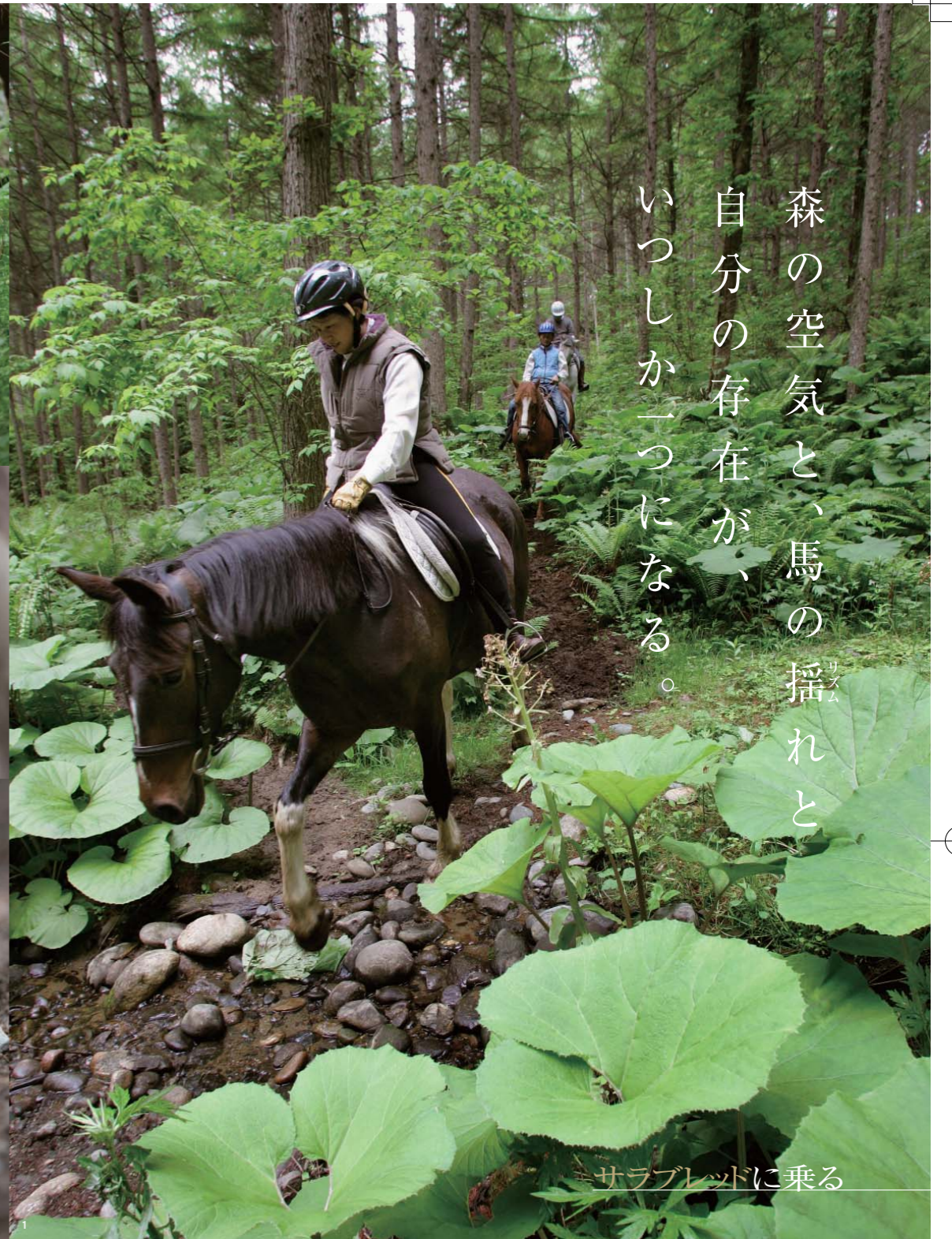
新冠町の道道209号線は、約8kmにわたって直線道路が続き、両側に見渡すかぎり緑が広がりサラブレッドの姿が点在する。この地域には、競走馬の育成牧場、種牡馬を飼育する繁殖牧場などが多数集まっていることから、「サラブレッド銀座」と呼ばれている。銀座1丁目付近にある展望台に登ると、その雄大な景色が一望され、「馬の国」にいることを実感できる。往年の名馬・ハイセイコーの墓や「ナリタブライアン記念館」などもあり、熱心なファンが今も大勢訪れている。



Data
 [サラブレッド銀座]
 新冠郡新冠町字高江
 ☎01464-7-2111(新冠町役場)、0146-47-2421(新冠町観光協会)
 [ナリタブライアン記念館]
 新冠郡新冠町朝日273-6
 ☎0146-45-7123
 ⑨9:30~16:30(11~3月は15:30まで) ⑩火、水(1~3月は水のみ)
 ⑪¥300(中学生以下無料)
<http://www.ijs.co.jp/brian/kinenkan.htm>
 ※サラブレッド銀座周辺の牧場見学の問い合わせはこちらへ
 [競走馬のふるさと日高案内所]
 ☎0146-43-2121 <http://www.uma-furusato.com/>



1.グラスホッパーの人気者・ゲンキ。2.穏やかな優しい目のミチル。3.悪路にもビクともしない確かな足取り。4.パドックで練習してから森へ。5.代表の荒井亜紀さんは現役の馬専門獣医。大阪出身で10年前に新冠に移住した。14歳で北海道の牧場にファームステイし、馬の美しさや子馬の躍動感に魅せられたという。最初はジョッキーを志すが、女性の受け入れのない時代ゆえに断念、獣医の道に進む。現在は、新冠に「共有の公園でポニーを飼いながら暮らせる家」を建てるプランの主要メンバーとして計画を推進中。



森の空気と、馬の揺れと自分の存在が、いつしか一つになる。

サラブレッドに乗る

解放感の中、ゆったり揺られ森を行く

荒井さんを先頭に、そのまた先を「ボクが案内役さ」と言わんばかりに犬の「ゲンキ」が軽やかに進む。「荒井さんに「元気に走りましよう」と名付けられ、名前の通りに育った幸せな犬だ。

足を踏み入れた森は、空を覆う木々の足元をちよろちよろと小川が流れ、そばにはシダや灌木が大きく葉を広げる静寂の世界。ふと、映画「ジュラシック・パーク」を思い出してしまった。

泥や石で足場の悪くなった細い道を、馬たちは確かな足取りでゆったりと歩いて行く。「上り坂では前かがみになってください」という荒井さんの指示に従い、バランスをとろうと緊張したのだが、馬は「そんなことまかせておいていいよ」というふうにと楽々と乗り越えていくから頼もしい。

馬上から見る森は、すぐそばに木々の枝葉を感じるせいか、歩いているときより身近に感じられる。思いきり空気を吸い込めば、かすかに緑の香り。絶好の森林浴だ。馬の揺れに身体を任せてのんびり心を解放していると、急に辺りが開けて、笹の草原に出た。

吹き渡る風に波立ち、ゲンキが跳ね回るとつれて波紋を起す。笹の海。人が立てば腰までの高さ、馬の上だと高みから悠々と見渡せる。

ここでひと休み。馬たちのおやつポイントでもあり、道中「ここでだけは、文字通り「道草」を食っていいことになっている。もぐもぐやっている馬たちの上で、再び深呼吸。この気持ちよさ、絶対にクセになりそうだ。

今回は初心者向けの60分コースだったのだが、100分コースや中級以上コースになると、さらに広い草原や川にまで行くという。「……って聞いたら、また来たくなつたっしょ?」そうささやくかのように、帰り道、ミチルが一瞬ちらりと視線を送ってよこした……ような気がした。